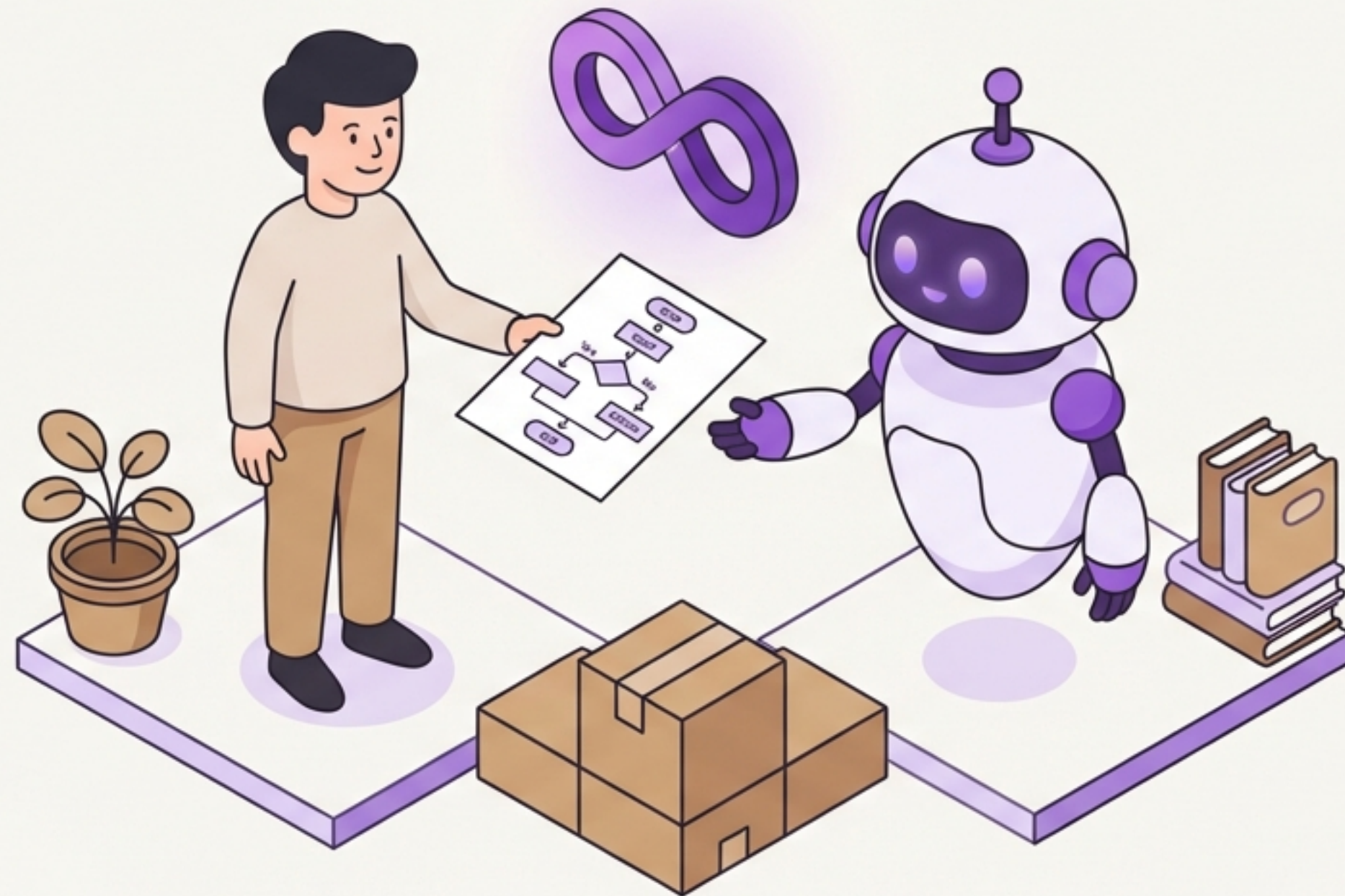
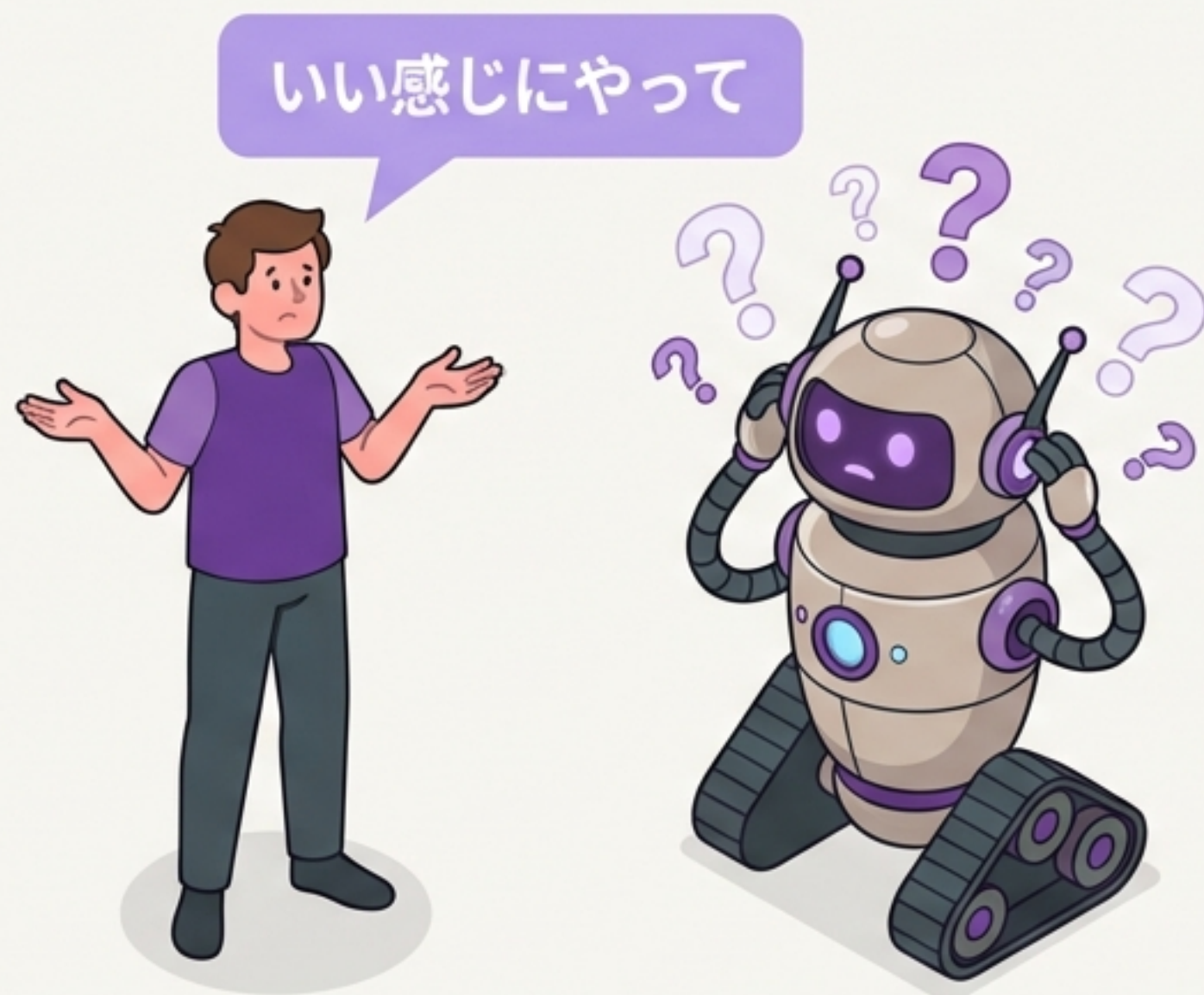


Make.comで学ぶ「プログラミング脳」の鍛え方

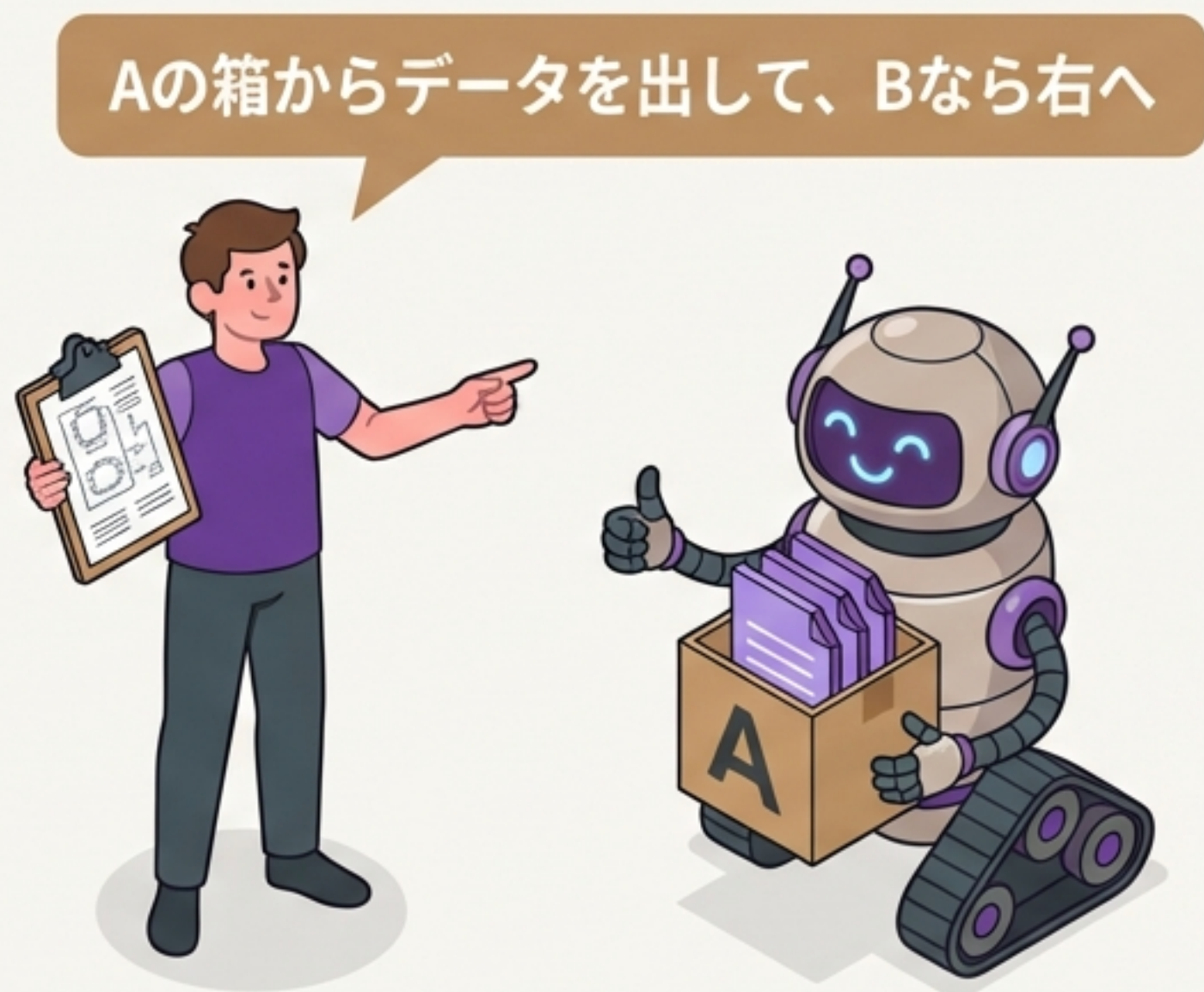
非エンジニアのための基礎教本 — 変数・分岐・ループをマスターする



プログラミングは「魔法」ではなく「翻訳」です



人間：「データを処理して」
ロボット：(??)



人間：「具体的な手順を指示」
ロボット： (!!)

コンピュータは曖昧な指示が苦手な「超・真面目なロボット」です。
業務手順をロボット語に翻訳するのがプログラミングです。

覚えるべきはたったの3つ

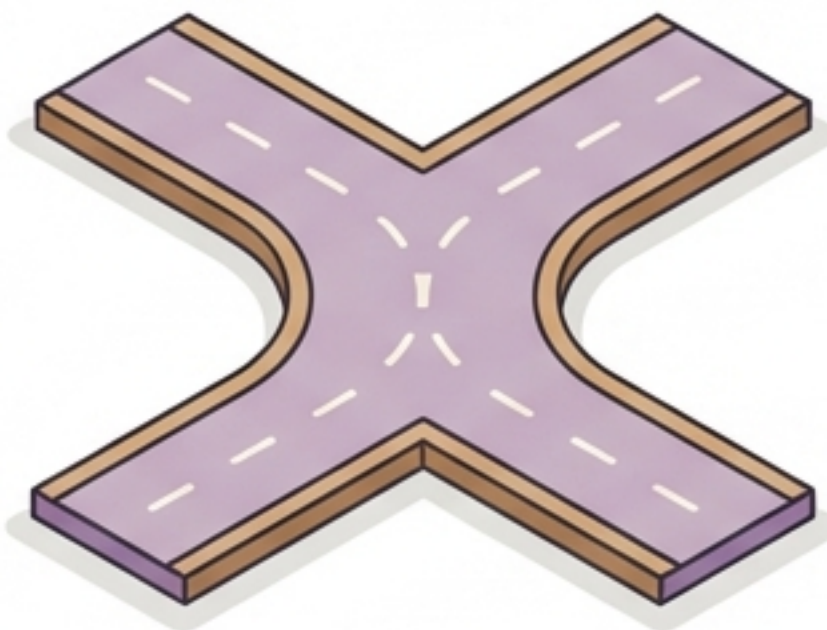
どんな複雑なシステムも、この3つの組み合わせでできています。

1. 変数 (Variables)



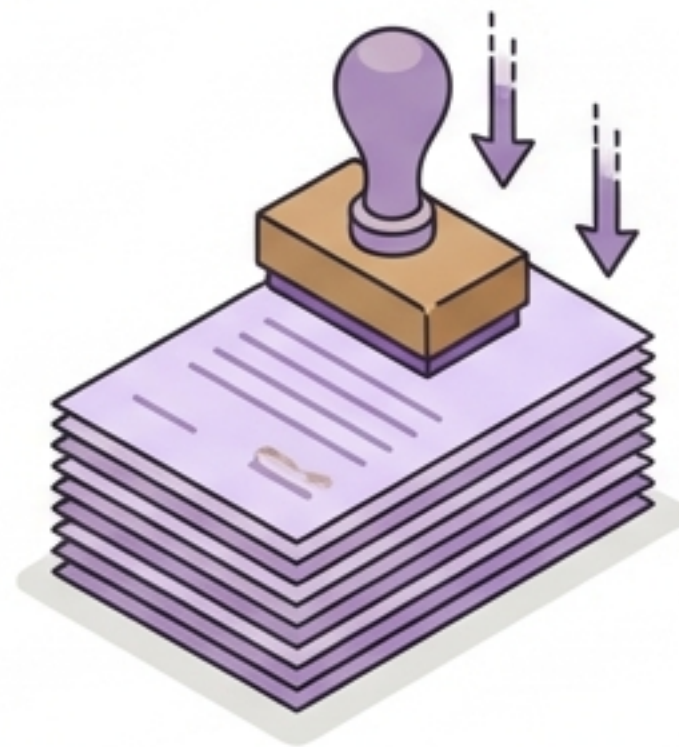
データの箱

2. 分岐 (Branching)



条件判断

3. ループ (Loops)



繰り返し処理

第1章：変数（へんすう）とは？

「名前のついた引越しのダンボール」



ラベル（名前）：Kitchen

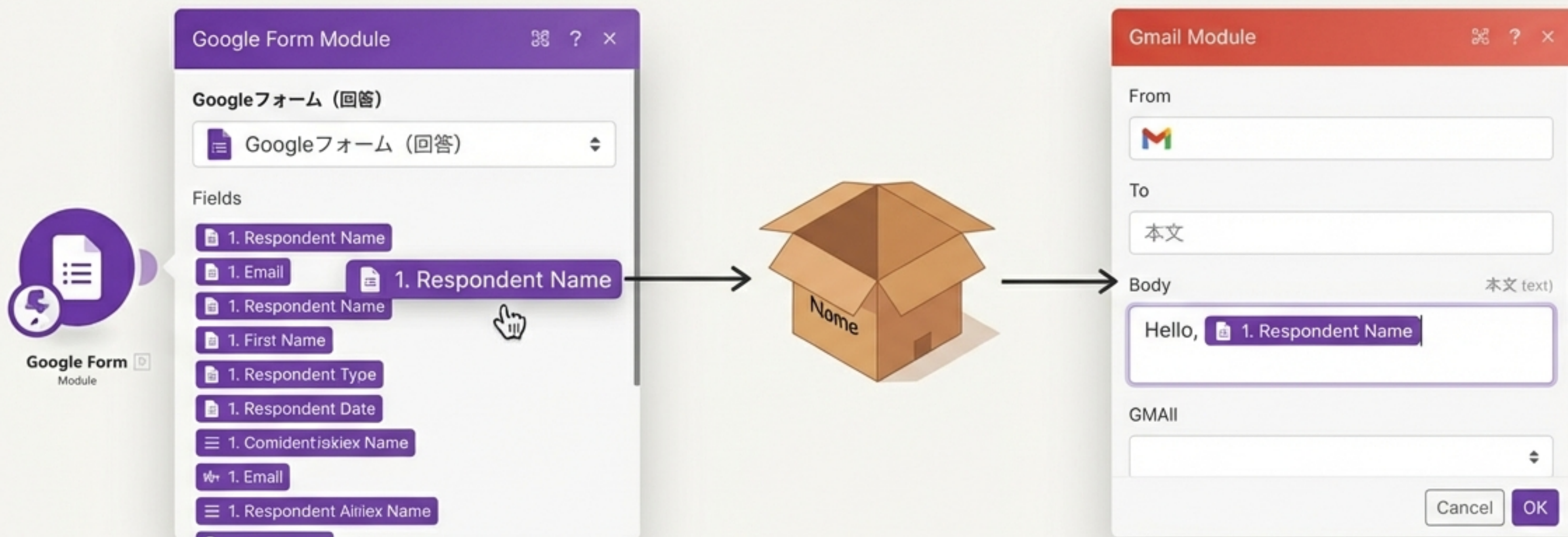


ラベル（名前）：Name

箱には「ラベル（名前）」があり、中に「中身（データ）」が入っています。

プログラミングでは、この「箱」を使ってデータを受け渡します。

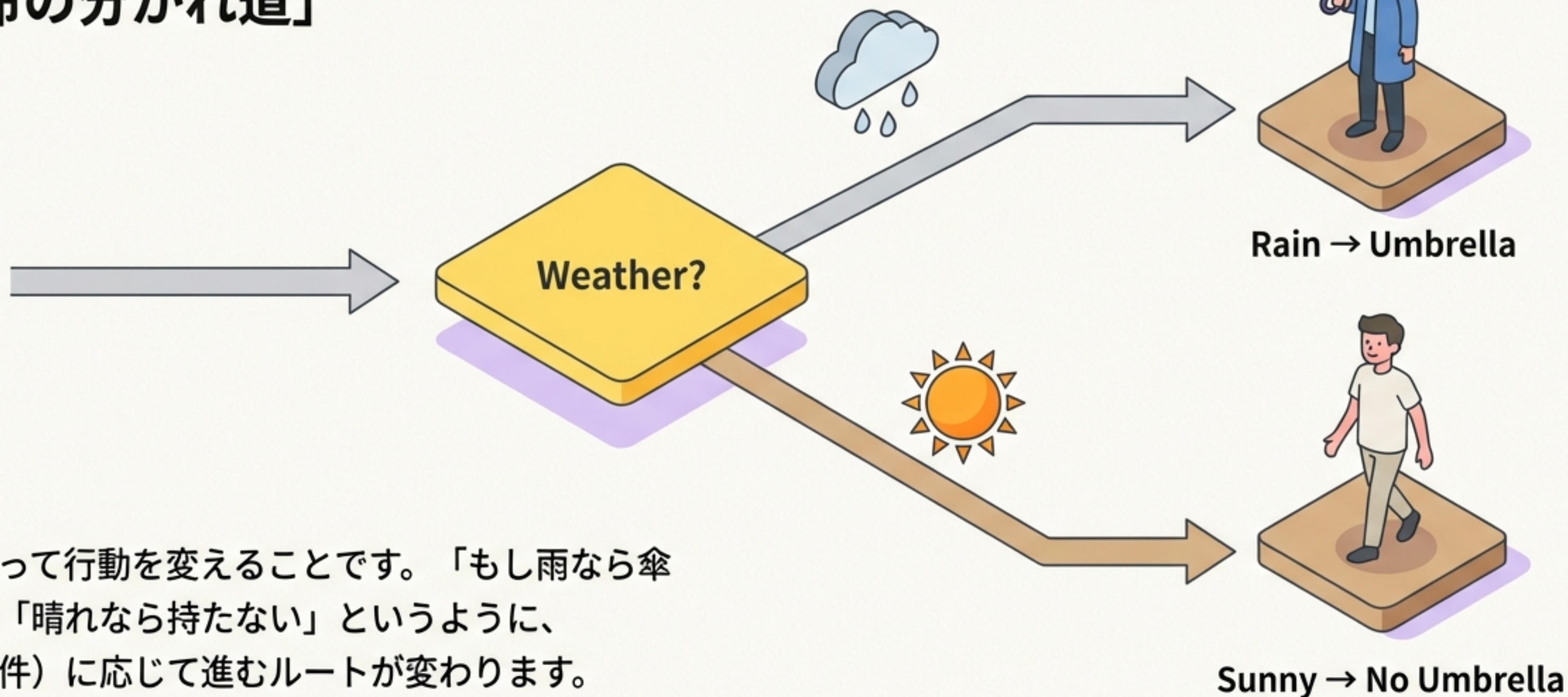
Make.comでの正体：「紫色のチップ」



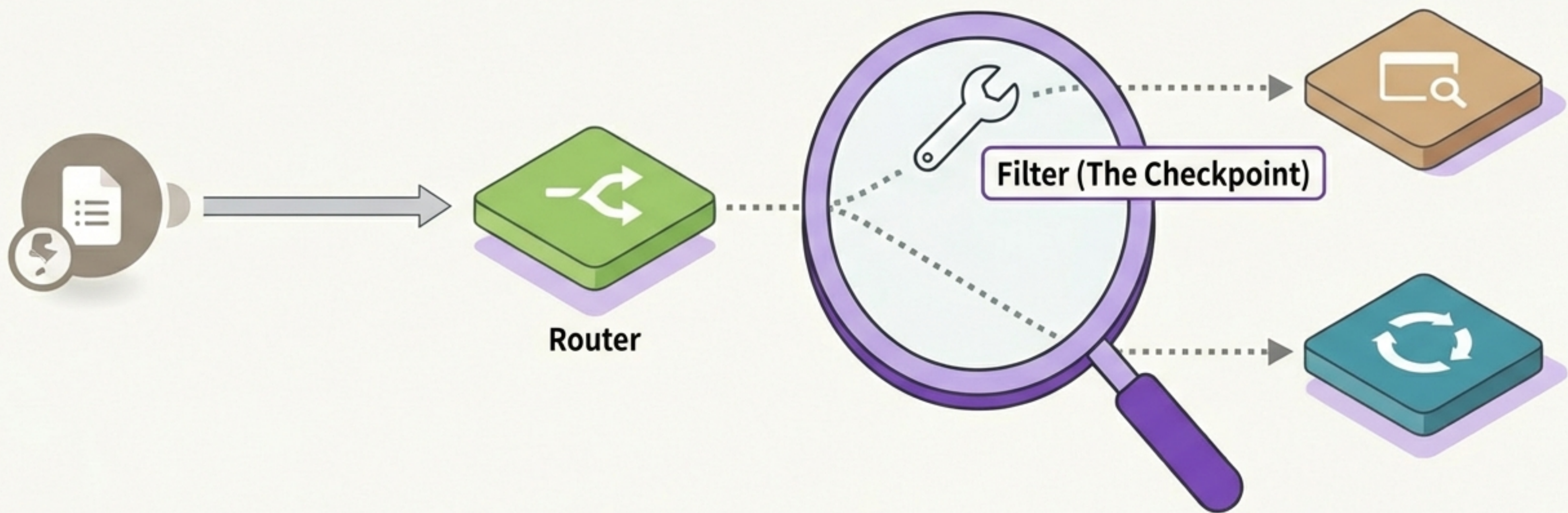
画面上でデータを選ぶパネルに出てくるカラフルな項目こそが「変数」です。Googleフォーム（箱）からGmail（宛先）へ、チップをドラッグして渡すことでデータが移動します。

第2章：分岐（ぶんき）とは？

「運命の分かれ道」



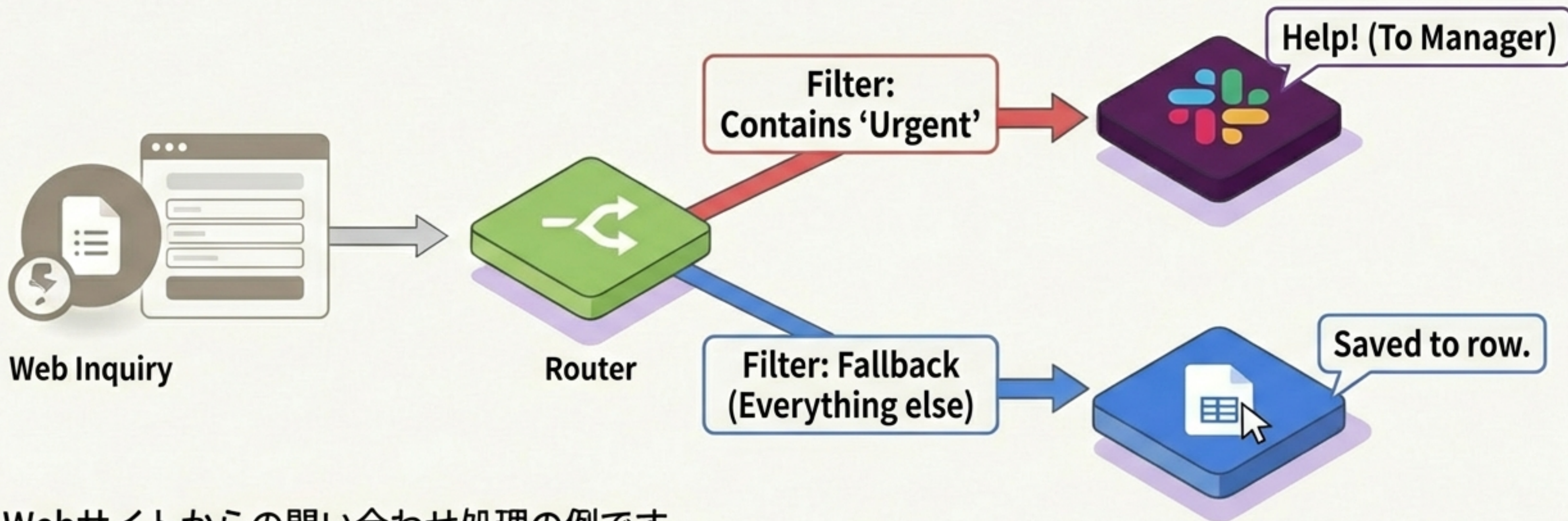
Make.comでの正体：「Router」と「Filter」



Router（ルーター）：道を物理的に分ける分岐点。

Filter（フィルター）：その道を通れるかチェックする関所（条件設定）。点線をクリックして設定します。

実践：問い合わせの「緊急度」でルートを変える



Webサイトからの問い合わせ処理の例です。

ルートA：「緊急」という文字が含まれていればSlackへ通知。

ルートB：それ以外はスプレッドシートに保存して終了。

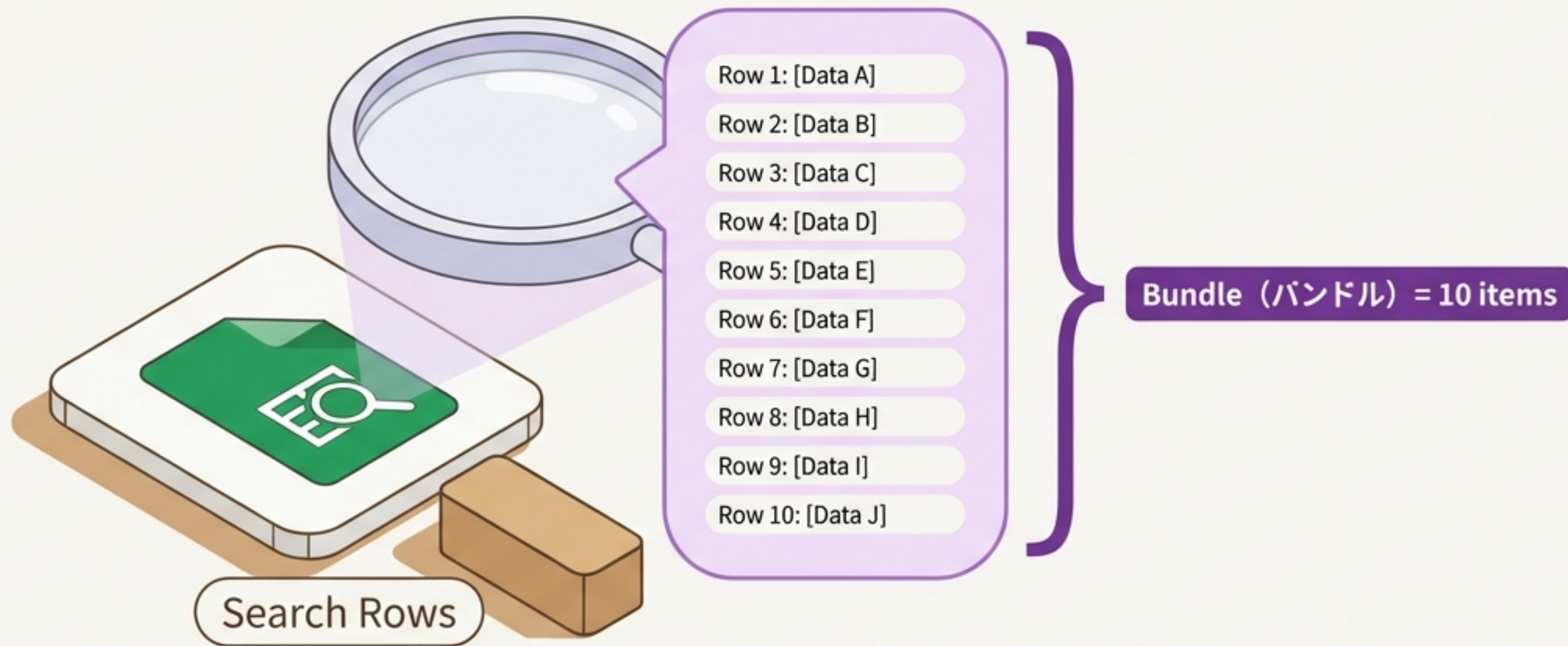
第3章：ループ処理とは？

「書類の束を、1枚ずつ処理すること」



ループとは、同じ作業をデータの数だけ繰り返すことです。まとめてドンと処理するのではなく、1枚手にとって処理し、終わったら次の1枚……という反復作業を指します。

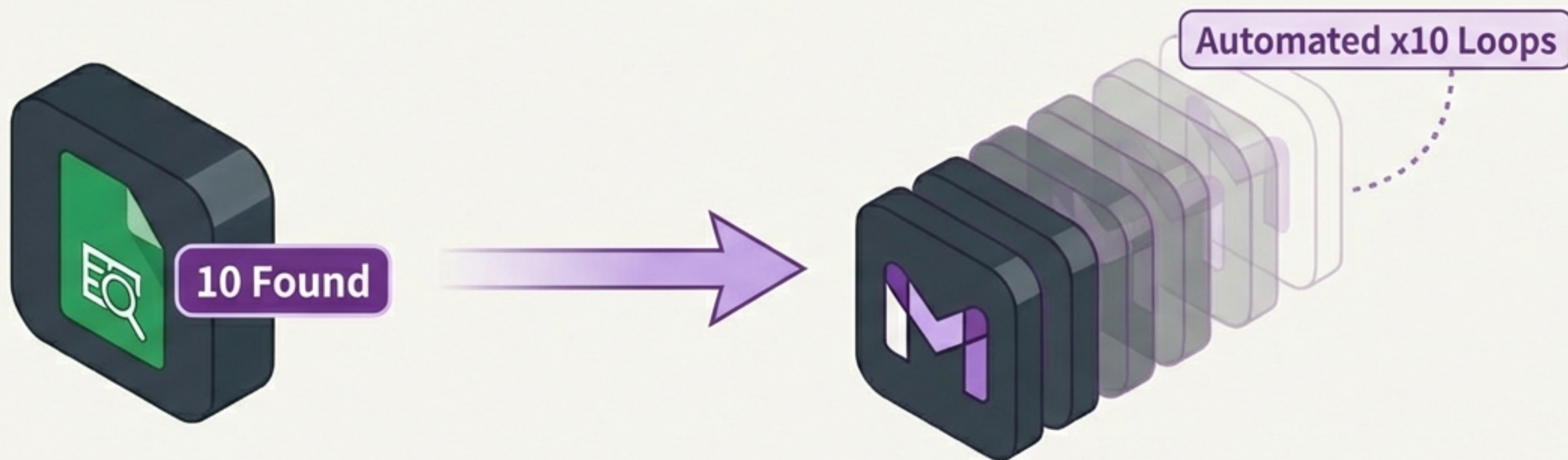
Make.comでの正体：「Search」の結果処理



Make.comでは「**Search Records**（レコードの検索）」などの検索モジュールを使うと、ループの準備が整います。ロボットが10件のデータを見つけてきたこの塊を「**Bundle**」と呼びます。

自動ループの仕組み

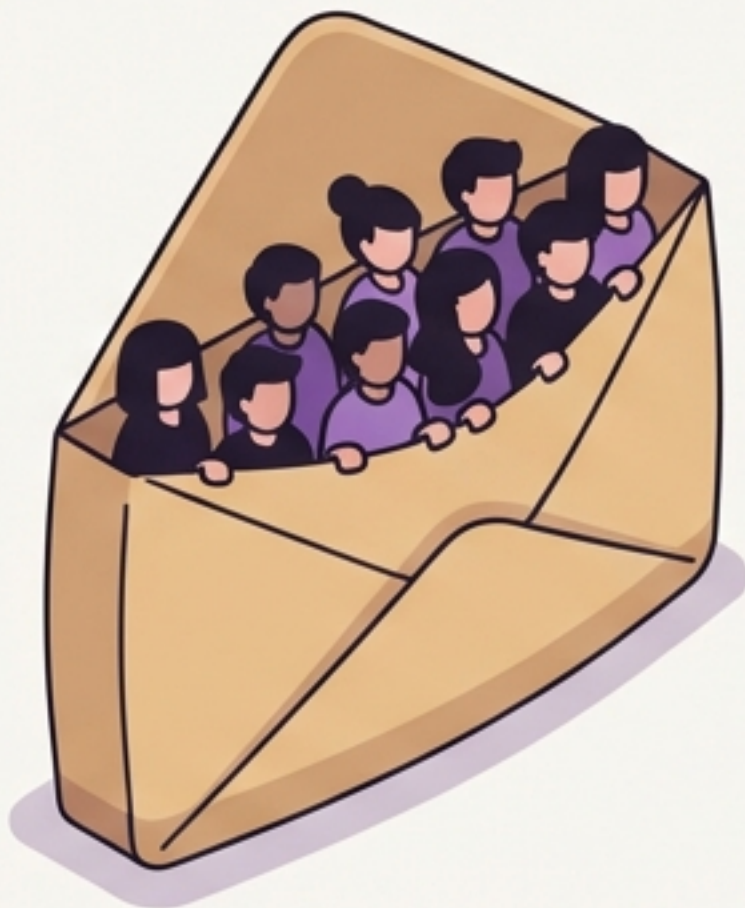
検索の後ろは「勝手に回る」



ここがMake.comのすごいところです。検索モジュールの「後ろ」に繋げたモジュールは、見つかった数だけ自動的に動きます。

- 1回目：1行目のデータ
- 2回目：2行目のデータ...

【注意】初心者が陥りやすい罠



× 間違い：10件を1つの塊として送る



○ 正解：10回繰り返して送る

Make.comは「10件見つかったら、後ろの作業を10回繰り返す」のです。
「あれ？メールが10通も届いた！」と驚かないようにしましょう。それが正しい挙動です。

日常業務を「プログラミング脳」で分解する



変数 (Variable)

転記作業

例：Excelの『氏名』を
メールの『宛名』に移す



分岐 (Branch)

判断業務

例：金額が10万円以上なら
部長決裁へ

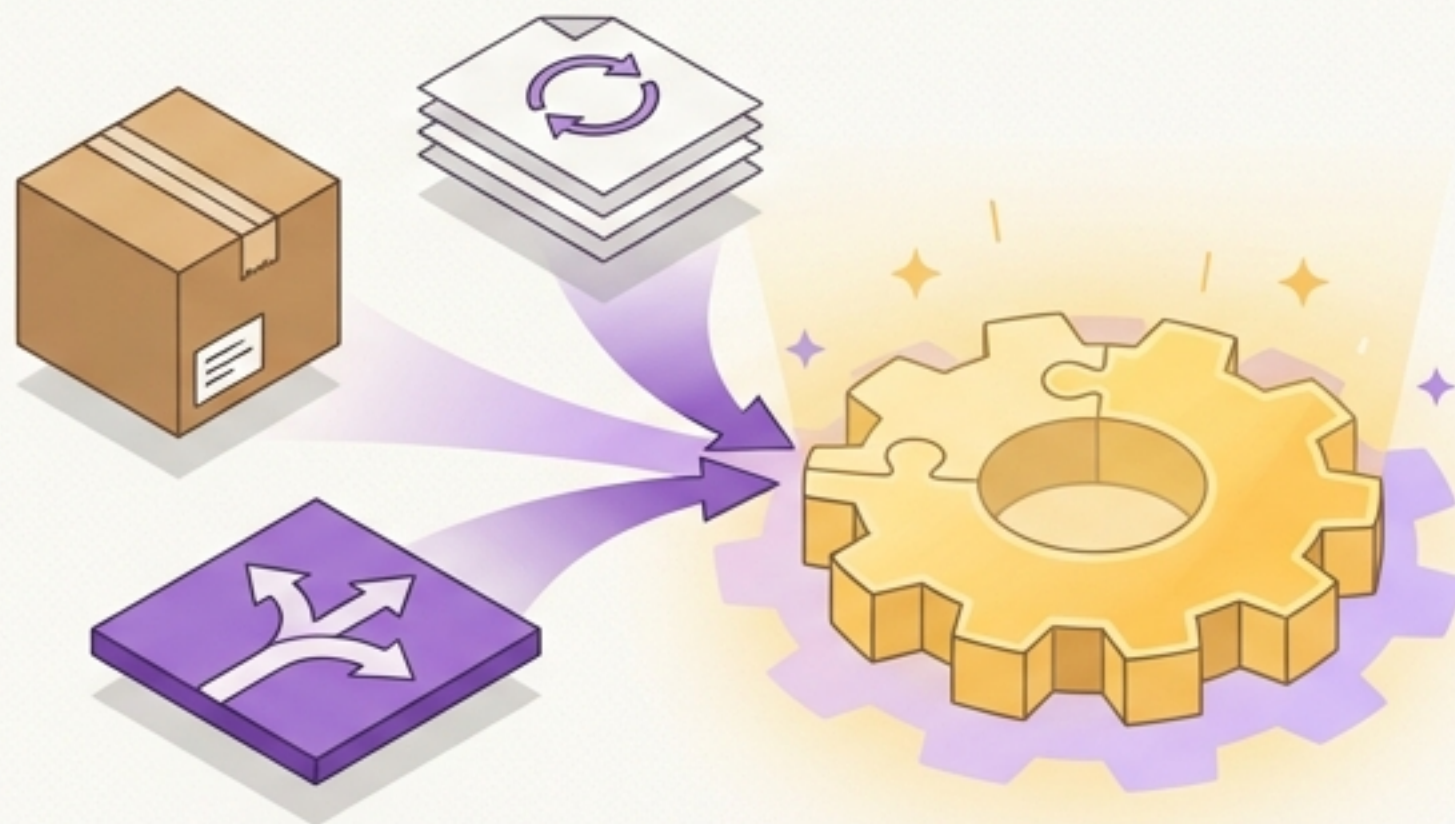


ループ (Loop)

反復業務

例：リストの50社すべて
に請求書を発行

コードは書けなくても、ロジックは作れる



Make.comはマウス操作でこの3要素を組み立てるツールです。
必要なのは「**どういう手順で？（ループ）**」「**どのデータを？（変数）**」
「**どういう条件で？（分岐）**」というロジックです。この3つを意識するだけで、業務自動化スキルは劇的に向上します。

**さあ、あなたの「真面目なロボット」に
指示を出してみましよう。**



Make.com Automation Guide